

編 集 後 記

平成28年度は杏林医学会誌優秀論文賞（旧杏林医学会賞）と研究奨励賞に多数の応募をいただき、誠にありがとうございました。編集委員はその査読に時間を費やすとともに、各教室のアクティビティの高さに感心した次第です。編集委員会の最終選考でも、委員のコンセンサスから各賞に相応しい原著論文、症例報告が選ばれました。留学中、出張中の研究も含まれますが、優れた指導者との出会いや、極めて稀な症例との出会いは著者にとって一生の宝であり、その経験を論文としてまとめる能力は、将来、より大きな課題に適切に対処できる基盤となります。

学生への講義の最後に、「分子生物学を学ぶこと（学び直すこと）」「英語で論文を書くこと」「医師を指導する医師になること」を話していますが、学生はポヤーンとしていて実感は湧かないようです。その昔、ある先達から、「医師には、小医、中医、大医の3種類ある。」と教わりました。小医は地域に根ざした医療の要であり、中医は全国あるいは世界規模で医師を指導する医師であり、大医は感染、がん、慢性疾患の発症予防対策から数百万人から数千万人を救う医師であると説明されました。大医は実現できれば偉大ですが、仕事上の好みもありますから何とも言えません。そこで、この話しを聞いた30年前は中医を目指そうと思い、今に繋がっています。但し、少子高齢化社会と医療の地域偏在を迎えて、現在は小医の役割も大変に重要です。若手医師は「良医」になることは当たり前として、明確な将来像を持って日々の診療に勤しんでいただきたいと思います。

(S.I.)

編 集 委 員

(長) 岡 島 康 友

井 本 滋	川 村 治 子	小 林 富美恵
杉 山 政 則	照 屋 浩 司	松 村 讓 兒
道 又 元 裕	森 秀 明	森 田 耕 司
吉 野 秀 朗		

杏林医学会雑誌 第47巻 第4号

URL : <http://plaza.umin.ac.jp/~kyorinms/>

平成28年12月31日発行

編集人 岡 島 康 友

発行所 杏 林 医 学 会

東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学 医学図書館内